

図書館だより

No.158

- 300年の伝承を子どもたちに「片瀬餅つき唄」・・・ P1
- ご存じですか? 各市民図書館・図書室から・・・ P2~3、6~7
- 2007 秋の読書週間・・・ P4~5
- 郷土の文化人 その5 佐江 衆一・・・ P8

図書館のホームページ <http://www.lib.city.fujisawa.kanagawa.jp/>



ふじさわ

2007年から2008年へ



新しい年も暮らしのなかに図書館を!

藤沢市片瀬に江戸・元禄時代から伝わる「片瀬餅つき唄」。三百年前から年末行事の餅つきとともに歌い継がれてきた地域の里謡は、市指定の無形民俗文化財です。

300年の伝承を子どもたちに「片瀬餅つき唄」

片瀬餅つき唄

ねり唄 (餅をねる時に唄う ゆっくりとした調子)

ヤレ富士のナー白雪キヤオ (アーマダマダ)

アレサ旭で溶ける ヤレ溶けてナー流れてヨオ

(アーマダマダ) アレサ三島にそそぐ

差した杯 中見ておのみ 中にや鶴亀五葉の松

ヤレエ 目出度目 (アードウシタ) 出度の (アメダタノ)

若松様よ ヤレエ枝もさ (アードウシタ)

かえて (アサカエテ) 葉も茂る

相州片瀬の逆りの松は 松は枯れても名は残る

つき唄 (餅をつく時に唄う 早い調子)

目出度やこの家の棟にや 咲いてそうや

黄金の枝が七枝 咲いてそうや 黄金の枝が七枝

見上げてみれば竜口寺 みおろせば江の島、片瀬、鎌倉

片瀬の村は長い村 前は海後は小松、小林

江の島前で餅つけば 音のよさ音のよさ 岩にひびける

片瀬の浜に名所あり なもとは江の島沖にや姥島

江の島前で鳩が鳴く 何となく江の島御繁昌と鳴く

江の島見たか江戸見たか 江戸は見た江の島名勝まだ見ぬ

目出度いことが重なりて 嫁はくる妹は嫁につきそよ

ヤレお前百まで (ソレ) わしや九十九まで

ヤレ共に白髪の (ソレ) 生えるまで

片瀬餅つき唄保存会編『片瀬餅つき唄』より

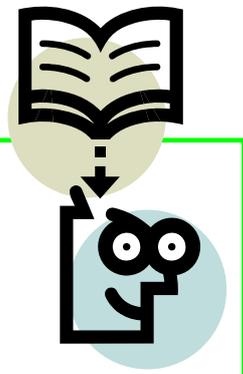


新しい年が平和であるようにとの願いをこめて、明るい歌声が響き、蒸し上がった餅米の湯気や、つきたてのやわらかいお餅の匂いが漂ってくるかのようです。このような日々の暮らしの中の伝承を次の世代に伝えることは、大切なことです。

藤沢市図書館では、郷土の歴史民俗を後世に伝えるため、藤沢に関する資料を積極的に収集しています。藤沢資料をどうぞご活用ください。



ご存じですか？



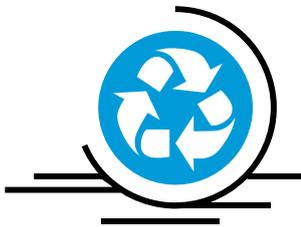
辻堂市民図書館 「環境図書コーナー」

辻堂市民図書館では「環境図書コーナー」を設け、関連図書・資料を集めています。日本十進分類法による、気象学（分類記号451）、衛生工学・都市工学（同518）と公害（同519）に属する資料が中心となっています。

このコーナーの資料は、どなたでも探しやすいように、テーマごとに区分けしてインデックスをつけて並べています。

主なテーマ

熱帯雨林、洗剤、アスベスト、薬・化学物質、環境ホルモン、自然保護、地球温暖化、フロン・大気汚染、オゾン、原発、エネルギー、電磁波、住居、ダイオキシン、食物、ゴミ問題、リサイクル、騒音。



また、自治体の取り組み、外国の事例、環境白書などの資料、環境問題関連の辞典、関連法律書はコーナーの下段に集めています。

これからも、「環境図書コーナー」をどうぞご利用ください。

南市民図書館

「子どもと本をつなぐ場所・児童カウンター開設」

藤沢市で最初にできた南市民図書館。この7月、玄関ロビーから児童コーナーへの階段をスロープ化し、メインカウンターへの階段に手摺りをつけて、赤ちゃんと一緒にの方やお年寄りにも安心してご来館いただけるようになりました。

そして8月からはみなさんのご要望にお応えし、児童カウンターを毎日午後3時から5時までオープンしています。本の貸出・返却はもちろん、子どもの本に関する相談にもお応えしています。

毎週水曜日のおはなし会には、たくさんのお子どもたちがやってきます。はじめてのお子どもたちもよく来てくれる子どもたちに混じって、やがておはなしを楽しめるようになっていきます。赤ちゃんも、手遊びやわらべうた・絵本であたたかいひとときを過ごしています。

毎月第2土曜日には、すばなしを入れたおはなし会がありますので、小学生も楽しめます。

★おはなし会のある日は

毎週水曜日 午後3時30分～4時、
毎月第2土曜日 午後2時～2時30分 です。

子どもと本をつなぐ場所・図書館へどうぞ！



湘南大庭市民図書館 「ヤングアダルトコーナー」

ヤングアダルト（YA）コーナーが新しくなりました。このコーナーは、中学生・高校生のティーンエイジャーのためのコーナーです。

HAPPYなとき ... **迷った**とき ...

どんなときにも **本** がある

本の森を冒険 しよう。きっと、新しい何かを **発見** できるはず!!

～ こんな風になりました ～



★ 図書が充実しました ★

これまでのコミックや文庫に加えて、文学や占い、職業や進路、写真集、バンドスコアなど、皆さんが興味のある、新しい本が増えました。

★ 新しく展示コーナーができました ★

さまざまなテーマや分野の資料を集め、情報発信の場として、ワクワク☆ドキドキするような展示や企画を行っていきます。

★ 机と椅子を設置しました ★

中学生・高校生が優先的に使うことができる席です。

みなさんからの提案や情報をお待ちしています。 図書館へお出かけください!

< 年末年始の休館日のお知らせ >

年末年始の休館日は、

市民図書館（総合・南・辻堂・湘南大庭）

12月29日（土）～1月4日（金）

11 市民図書室

12月28日（金）～1月4日（金） となっています。



総合市民図書館

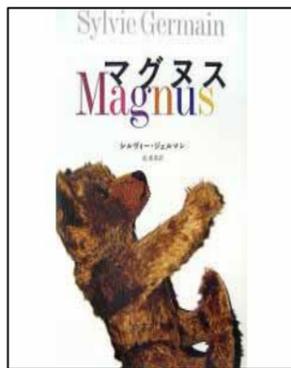
講演会「図書館へ行こう！

知的発見のすすめ」(10月28日)

講師：作家・翻訳家 辻 由美氏

読書や図書館をめぐる状況は大きく変化しています。そのような中、図書館利用の巧みに学ぶ講演会が行われました。図書館ネットワークやメール・レファレンスを活用し、必要な情報を的確に得たという体験や、フランスの読書教育の試みである、子どもや若者が審査員となって与えられる文学賞の紹介など。

特に印象的だったのは、芥川賞に相当する「ゴンクール賞」が高校生のクラス討論で決まってしまうというフランスの読書教育。発端は2～3人の司書が始めた運動でした。この日仏の差は何なのか、考えさせられました。



辻 由美氏 翻訳最新作

『マグヌス』
シルヴィー・ジェルマン著
みすず書房
2006年刊

講演会「水族館とわたし」(11月6日)
講師：新江ノ島水族館館長 堀 由紀子氏

新江ノ島水族館は、市民誰もが認める自慢の施設です。その「えのすい」の館長が、運営の歴史を語る講演会が開かれました。岐阜県世界淡水魚園水族館の館長も兼務しておられ、水族館の飼育・種の保存や展示への取り組み、観覧・体験学習・調査研究の場として充実させる努力、日本人の豊かな自然観を大切にしている理念を伺いました。



生命の不思議さと多様性を再認識し、地球という生命環境を守っていくことの大切さを感じました。

コンサートと映画のつどい(11月10日)
演奏：湘南マンドリン・ギター・アンサンブル

ヘンリー・マンシーニの映画音楽を中心に、コーラスを加えたプログラム。恒例のコンサートに場内満席。引き続き映画を鑑賞しました。

辻堂市民図書館

講演会「相州に花ひらいた耕餘塾」
(11月3日)

講師：詩人 村上 享子氏
(明治郷土史料室運営委員)

耕餘塾は、羽鳥村(現：藤沢市羽鳥)の三鶯家に招かれた小笠原東陽氏が、明治5年3月に廃寺であった徳昌院を教場として学問を教えたことに始まります。明治30年9月9日に閉塾するまで25年間つづいた私塾です。



講演会当日の様子



小笠原 東陽氏宅の模型

学制施行に先がけて公立学校的役目を果たし、やがて中等教育を担う教育機関へと発展しました。塾生は、通算で1000名を越え、吉田茂首相、鈴木三郎助(「味の素」創業者)など、各分野で活躍した有為な人材を世に送り出しました。

藤沢市の誇りとする耕餘塾のことを多くの方に知っていただくため開催しました。当日は地元の方を中心に35名の参加があり、アンケートによると「地域の知らなかった歴史に触れることができた」「これからも地域の歴史を扱ったテーマで講演会を開いてほしい」など、好評でした。

人形劇のつどい(11月10日)
参加団体：ピッコロ
プログラム：人形劇「まゆとおに」ほか

図書館の朗読タイム(11月15日)
参加団体：『渚の風』朗読会
プログラム：「私を変えた1冊」ほか

南市民図書館

子どもマンガ教室(10月28日、11月4日)

漫画家の大山哲也氏を講師に迎えて、先生が実際に原稿を描く様子や生原稿、製本された単行本等を見てから、実際に子どもたちに原稿を描いてもらいました。普段からマンガを書き慣れている子どもが多く、はみ出した線の消し方やスクリーントーンの貼り方について、熱心に質問して取り組んでいました。原稿は、後日製本して、子どもたちに配布します。

鎌倉文学散歩(講師：島津勝昭氏)

学習会(10月30日)
テーマ「あの虹の橋を渡って鎌倉へ 森田愛子の敬慕」「葛西善蔵とおせい」



現地見学(11月2日)
鎌倉駅 平野屋跡 平和の木 寿福寺(高浜虚子、森田愛子の墓、立子句碑) 鶴岡八幡宮 林不忘あかがね御殿跡 古都保存法発祥の地 建長寺(剣花坊川柳碑、宝珠院・招寿軒) 澁澤龍彦旧居 北鎌倉駅。



文学散歩当日は天気にも恵まれ、先生から鎌倉の文学や歴史についての楽しいお話を伺いながら、秋の鎌倉を満喫しました。

参加者からは「本の登場人物が、とても身近に感じられるようになった」「読みたい本が増えた」「来年も楽しみにしています」などの感想が寄せられました。

読書週間子どものつどい(11月7日)

会場が熱気でクーラーを入れなければならないほど、大勢の親子連れが来てくれました。大型絵本や紙芝居、パネルシアターでおはなしを十分楽しんだ後は、フラグランスの曲にあわせて、みんなで踊り、大人も子どもも大いに盛り上がりました。

♪ 2007 秋の読書週間 ♪

～人と人をむすぶ 人と地域をむすぶ～

湘南大庭市民図書館

あきのおはなし会(11月3日)

見事な紅葉のなか、木の実や草花で飾りつけ、「あきのおはなし会」を行い、幼児から大人までたくさんの参加がありました。

プログラムは、おはなし『こぶじいさま』『ホットケーキ』、大型絵本『ねずみのいもほり』(山下明生作 岩村和朗絵 チャイルド本社)、『しりとりのだいすきなおうさま』(中村翔子作 はたこうしろう絵 鈴木出版)、大型紙芝居『たべられたやまんば』(松谷みよ子作 二俣英五郎画 童心社)、手あそびや詩など盛りだくさんの45分間でした。



終了後、おはなしの元になった本・読んだ絵本・同じ作者の本・しりとり絵本などを紹介。参加者は気に入った絵本や紙芝居を借りていきました。たっぷりとおはなしの世界を楽しんだ一日でした。

参加者アンケートから
・「やまんば」のおはなしが怖かった、あせが出た。
・秋らしい飾りや少し暗い照明で、おはなしの世界に入りやすかった。
・初めて来ましたが、おはなしに引き込まれ、とても良い雰囲気でした。子どもは紙芝居が気に入ったようです。

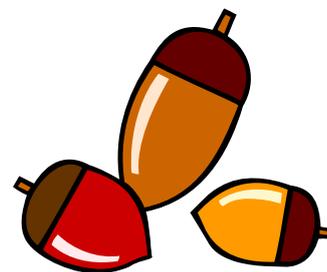
総合市民図書館 「子育て応援コーナー」

図書館には、子どもの本や子育てのさまざまな情報を求めて、子育てをしている方・これから子育てをする方が来館します。そして、みなさん思い思いの時間を過ごしています。

平成18年11月から始まった「ブックスタート事業」も1周年を迎え、もっと図書館を利用したい・おはなし会に参加したいという方が増えています。

そこで、“地域も図書館も子育てを応援しています”という気持ちを込めて、地階エレベーターホール前に“子育て応援コーナー”を開設しました。

1歳6ヵ月児健康診査の時に、絵本を開く楽しい体験と一緒に絵本を手渡し、子育てを応援するメッセージを伝える活動です。



このコーナーでは、図書館員がおすすめしている本、赤ちゃんや子どもが楽しめる絵本のリスト、手作りのおもちゃとその作り方がのっている本を紹介しています。

また、近隣で行われる催し物のチラシ、新聞の子育て情報のスクラップ、藤沢市内の公園・児童館のマップなども用意しています。

子どもたちが本に親しめるように「おはなし会」もしています。

- ・毎週火曜日 AM10:30～AM11:00
「おひざのうえのおはなし会」(赤ちゃんから)
- ・毎週木曜日 PM 3:30～PM 4:00
「4歳からのおはなし会」(4歳ぐらいから)
- ・毎月第2土曜日 PM 3:00～PM 3:30
「4歳からのおはなし会」(4歳ぐらいから)

場所は、地階おはなしのへやです。わらべうたや手遊びなど、赤ちゃんから楽しめるプログラムも用意しています。

総合市民図書館の子ども図書館に、ぜひお立ち寄りください。



おすすめの絵本(28冊)を紹介しています。



市民図書室の秋 公民館まつりにて

いつもとちょっと違う 図書室を見つけました！

各市民図書室で楽しいおはなし会がありました。
たくさんのちいさなお客さまが
大きな絵本の世界の中へ・・・



プログラム

- したきりすずめ (大型紙芝居)
- すうじの歌 (パネルシアター)
- やきいもぐーちーぱー (手遊び)
- ねずみのいもほり (大型絵本)
(遠藤)



(辻堂)

手作り扉を通して
おはなしのへやへ
(藤沢) →



「紙であそぶ」(鵜沼) ↑



指先にとまる
バランストンボ発見
← (六会)

テーマで展示 (長後)
「50歳からの生き方」 →



(遠藤) などの展示や貸出がありました。

「折り紙で作る」
くるくる回る
コマ (村岡) →



- このほか
- 「秋を楽しむ」 (御所見)
 - 「美容と健康」 (六会)
 - 「本屋大賞」 (藤沢)
 - 「地球環境を考えよう」 (善行)
 - 「日本の伝統としきたり」 (村岡)
 - 「秋の情景」 (遠藤)

** 「おはなし会」は各市民図書館・市民図書室で定期的に行っています。 **

お近くの図書館・図書室にどうぞおでかけください。

- | | | | |
|---------|---------------------|------------------|-------------------|
| 【市民図書館】 | 総合市民図書館Tel43-1111 | 南市民図書館Tel27-1044 | 辻堂市民図書館Tel35-0028 |
| | 湘南大庭市民図書館Tel86-1666 | | |
| 【市民図書室】 | 長後Tel43-7655 | 明治Tel35-7095 | 辻堂Tel35-7076 |
| | 片瀬Tel28-6935 | 遠藤Tel88-6235 | 六会Tel83-4686 |
| | 藤沢Tel28-6895 | 鵜沼Tel35-7096 | 村岡Tel28-6939 |
| | | | 御所見Tel48-4675 |
| | | | 善行 Tel83-4687 |

さ え しゅういち
佐江 衆一

プロフィール

小説家。1934年（昭和9年）東京浅草に生まれる。学童疎開を体験し中学から26歳まで茨城県古河市で過ごす。1960年（昭和35年）から結婚を期に藤沢市片瀬に在住。短編小説『背』で新潮社同人雑誌賞。芥川賞候補5回。『遙か戦火を離れて』、『洪水を歩む 田中正造の現在』、『横浜ストリートライフ』、『けんかの仕方教えます』（岩波ジュニア新書）、『北の海明け』（新田次郎文学賞）、『江戸職人綺譚』（中山義秀文学賞）、『黄落』（ドゥ・マゴ文学賞）など著書多数。藤沢ゆかりの著書では遊行寺開祖の一遍上人を描いた『わが屍は野に捨てよ』、江の島を舞台に始まる『風狂活法杖』、藤沢市の名所散策記『藤沢さんぼみち』もある。最新作は2007年9月出版の『長きこの夜』。

苦悩する人物が 生き生きと存在

佐江文学の全貌を、あるいはせめて佐江文学全体に流れる一端でも紹介できたらと意気込み、この二ヶ月かなりの数の作品を読ませていただいた。多様な主題の代表作だけでも到底読み尽くせず、大それたことであつた。どれを読んでも、作品の世界に引き込まれた。失礼な言い様であるが、サーッと読み飛ばせる作品は一つもなかった。どの作品にも独特の世界があり、人生の深いテーマを感じ、そこで苦悩する人物が生き生きと存在する。浮浪者襲撃事件の取材のため横浜寿町のドヤ街に泊まり込んで書かれた『横浜ストリートライフ』や、テレビドラマや芝居にもなりベストセラーとなった『黄落』などの壮絶ともいえる体験小説、氏の歴史観や人生観の垣間見えるもの、古武道などの趣味が達人の域に達し、その境地から描かれた時代・剣豪もの、青春期の郷里の義人政治家田中正造について書かれたもの、プロフィールに掲げたどの作品もそうである。

初期の純文学に始まり、社会派と云われる小説、時代・歴史小説、剣豪もの・職人もの、老老介護（この

語は佐江氏の命名）もの、田中正造研究、人生論・老い方の探求、昨今の旅行記やエッセイなど、氏の興味関心は多様で広大。良寛や一休に関する文章も私には印象的。おこがましく分類をさせてもらっているが、氏自身の中でこれらの世界は連続し、しかも共通する何かがありとあるのだろう。

氏の作品中、時々、吹き出したり感心させられる比喩表現に出会う。「…待たねばならない。二十秒か三十秒の間だが、万事まだ老人のスローテンポではない私には、たまった小便をがまんしているような時間に思える。」（『黄落』の一節）

近年、氏は自然（じねん）な生き方を説かれ、また一方では、「5年ごとに新しい夢を描く」を実践し提唱されている。多忙な執筆の傍ら、武道、茶道、書画、英会話、熱帯雨林植樹等の趣味も幅広く、各々が半端ではない。本当に元気な人だと思う。今秋、古河文学館（茨城県古河市）で佐江衆一展が開かれた。

藤沢市図書館では、佐江氏の作品約120冊を4館で所蔵しています。ぜひご一読ください。

編集後記

◇冬の読書といえば、故事からは「螢雪の功」が思い起こされます。油が買えなくとも、冬の夜は窓の雪の明るさを頼みに勉強する。故事は大袈裟かもしれませんが、図書館・図書室で本を手にとって冬を過ごされてはいかがでしょうか。

◇今号では各図書館で力を注いで取り組んでいるテーマについて特集しました。これからも、それぞれ特色あるコーナーをお届けしてまいります。

◇皆様よいお年をお迎えください。



発行 藤沢市総合市民図書館
藤沢市湘南台 7-18-2
Tel.0466-43-1111